

No.593 (改題553号)
2021年
12月29日(水)

新社会兵庫



週刊 新社会

発行所: 新社会党
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三成工業ビル3F
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫県本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4水曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

ひょうご

碑

52

物語

開港後の神戸は、人口が急増しインフラ整備に追われた。なかでも千人が犠牲になった1890(明治23)年のコレラ禍を機に、近代的な水道敷設が喫緊の課題となる。

しかし、市内の水源では買いきれず、宝塚の千刈貯水池から西宮の上ヶ原を経て神戸に至る15キロの「導水路」の建設が始まることになる。1914(大正3)年から始まった工事の大半が山中のため、トンネルでの水路となり、工事は15年におよぶ。難工事の連続で多くの犠牲者を出したとされる。

追悼碑には、この工事で亡くなった3人の朝鮮半島出身者の名前が刻まれている。この工事には、武庫川を横断し対岸に向かって伸びる建設当時そのままの巨大な水管橋をみる事ができる。なお、福知山線敷設工事殉難者の碑は、同市切

朝鮮人労働者追悼碑

(宝塚市切畑長尾山)

新自由主義の「改革」 「維新政治」を徹底検証

平和のついで



中山徹さん(奈良女子大学教授・円内)がリモートによる講演で維新政治のポイントをとりあげ徹底的に検証・批判した=12月11日、神戸市中央区

1(アイ)女性会議ひょうごが主催する恒例の「平和のついで」が12月11日、あすてっぶKOBEを会場にオンラインも併用して開催された。今年のテーマは「維新政治」について。先の総選挙で大きく伸長した日本維新の会について、改めて「どういう政党なのか」「なぜ支持されるのか」「どんな層が支持するのか」などを詳しく知りたい、知らなければならぬという切羽詰まった思いからの選択だった。講師は大坂都構想を厳しく批判してきた奈良女子大学の中山徹教授に依頼し、リモートでの講演となった。会場に60人が参加したほか、オンラインで95人が参加した。

講演では、2008年に大阪府知事になった橋下徹氏が10年4月に「大阪維新の会」を立ち上げて以降の維新の経緯、大阪都構想の問題点、維新の経済・福祉・教育政策を貫く新自由主義の考え方、そして巧妙な世論誘導の方法などが具体的に語られた。

会場からは「すごくわかりやすく、維新政治のひどさが理解できた」「具体的な事例で維新の悪いところをよくまとめた」「身を守る改革」ではなく「民を切る改革」ではなく「民を切る改革」ではなく「民を切る改革」

革だとよくわかった」など、大変好評だった。以下は講演の一部の概要。維新は、大阪府と大阪府の二重行政・無駄をなくすというが、実際には何にも無駄ではない。むしろ市と府の病院を減らしたために、大阪はコロナの死亡者が人口比で全国1位になってしまった。

【X】 JR福知山線武庫川駅新田にある。 (鍋島)



1914年から始まった千刈貯水池から神戸に至る「導水路」建設の難工事で亡くなった朝鮮人らを追悼する碑

く、学校をランク付けするために使われ、そのため試験当日には成績の良い生徒は休まざるをえなくさせられるという。その一方で定員削減や民間委託によって浮いた財源の一部を保育所無償化や塾費の援助、給食無償化などによって子育て層への宣伝効果を高め

大阪では堀江公園で「弾圧はねのける!12・12全国同時アクション」が開かれ、近畿各府県から約700人の労働者・市民が集った。主催者を代表して「労働組合つづしを許さない兵庫の会」の岡崎進・ひょうごユニオン委員長があいさつ。「関生への大弾圧が始まったとき、正直言って、関生側にも何か問題があったのではという認識が私たちにもあった。だが、関生の当事者や全日建連帯の小谷野書記長、支援の弁護士さんらから話を聞き学習するなかで、憲法に保障された労働三権を否定する解釈改憲であると理解を深



不当な刑事大弾圧をはねのけようと近畿各地から集まった700人が御堂筋をデモ=12月12日、大阪市

【お知らせ】今年1年のご購読ありがとうございました。次号は2022年1月19日付発行の新年合併号(8面)となります。 【編集部】

「関生支部」への刑事弾圧許すな 大阪集会に700人結集

弾圧はねのける!12・12全国同時アクション

全日建連帯関西生コン支部(関生、関生支部)への不当な刑事弾圧を許さないと12月12日、全国同時アクションが取り組まれた。大阪では堀江公園で「弾圧はねのける!12・12全国同時アクション」が開かれ、近畿各府県から約700人の労働者・市民が集った。主催者を代表して「労働組合つづしを許さない兵庫の会」の岡崎進・ひょうごユニオン委員長があいさつ。「関生への大弾圧が始まったとき、正直言って、関生側にも何か問題があったのではという認識が私たちにもあった。だが、関生の当事者や全日建連帯の小谷野書記長、支援の弁護士さんらから話を聞き学習するなかで、憲法に保障された労働三権を否定する解釈改憲であると理解を深

新社会党 兵庫県本部 2022新春のついで 2022年1月15日(土) 14時 神戸市勤労会館・308号 お話 神田香織さん(講師) (入場無料)

水脈

年末になると、「今年の○○」が多く発表される。中でも世相を反映するものとして注目されるものに「流行語大賞」がある。昨年はトッペン(トッペン)の過半数が新型コロナウィルス感染に関わる言葉だった。今年はどうか▼親ガチャ、人流、Z世代等、突然社会に登場した言葉に交じり、すでに20年以上も使用される「ジェンダー平等」がトッペンに入った。2月、五輪組織委員会の森喜朗会長の女性差別発言に対し、IOCもJOCも鈍い反応に終始したことから女性たちが猛反発。ネット上から広がった声が議院や著名人たちをも動かし、ついに森喜朗氏を辞任に追い込んだ▼選択的夫婦別姓が未だに認められないこと、非正規労働者の多数が女性であること、制度を決定する場(議会)への女性の進出が圧倒的に低いことも取り上げられ、多くの人がジェンダー平等を意識した2021年だった▼しかし、秋の総選挙はさらに女性議員の比率を下げた。森氏のような発言は、私たちが日常に繰り返される。指摘し反論する方が疲弊し、諦めてしまう現実がある。しかし、先人や身近な先輩たちが苦勞し、その以前より前進させた道のりを思えば、諦めず道を繋ぐしかない。来夏の参院選の課題でもある。

辛淑玉さんの講演や活動交流

新社会党が2年ぶりに全国女性党員・党友交流会をオンラインで開催

コロナ禍のため2年ぶりに開催された新社会党の第20回全国女性党員・党友交流会が12月5日、東京の会場と全国をオンラインでつなぎ開かれた。兵庫支部からは12人が参加した。

前半は辛淑玉さんの講演。数日間ドイツに移住し、大学講師を務めながら暮らした感想などを語った。「自分の頭で考え、意思表示をしないと生き



兵庫のサテライト会場
12月5日、神戸市

を増やすための選挙ともしよう」と激励。後半は各府県から、葛飾区議選の当選報告、総選挙での野党共闘、上関の自然を守る会の活動などが報告され、元気を分け合った。(岡崎彩)

労組の共闘運動再構築へ熱心に議論

党本部労働運動委員会が総会

新社会党兵庫支部労働運動委員会は11月28日、神戸市内で総会を開き、自治体、郵政、教育、情報通信、JR、地域ユニオンの各産別から党員が参加した。今年の総会では「労働組合の共闘運動再構築」をテーマに意見交換を行った。

まず、武庫川ユニオン・塚原久雄書記長より、米国のリビングウエイジ制定運動に学ぶ公契約条

例制の取り組みについて報告を受けた。県内では三木市、加西市、加東市、尼崎市、丹波篠山市で条理化されている。

次に、ひょうごユニオン・岡崎進委員長から「地域労働運動の展望と課題」と題した報告を受けた。総評解散後、兵庫県内では地域ユニオンの結成から兵庫県パト・ユニオンネットワークへ運動が広がり、また「7

つの地区労」と「8つの労働組合」で構成されているひょうご地域労働運動連絡会の活動に結実した歴史が紹介され、克服すべき課題として「大衆の力」に依拠した労働運動の「担い手」づくりの必要性と学習会の組織化が提起された。

参加者からは、各産別や地域ユニオンなどの持ち場で仲間を組織化しようとする努力している日常活動が報告されると同時に、産別を越えた交流を意識的につくっていくかなければならないことも併せて確認された。(細川)

迅速で働く介護職などの賃金引上げを施すものである。大企業の内部留保や富裕層の所得に指一本触れることなく、労働者と高齢者の間で所得などを「分ち合う」、悪く言えば「奪い合う」ことが分配政策と言えるのか。

このような分配政策に対して、介護などの賃上げが、利用者の負担増にならないような工夫が必要だと提起する新聞記事を読んだ。介護報酬など社会保障制度とは別建てで継続的に公費を投入する新たな処遇改善のシステムが必要だと。給付を増やせば必ず負担も増える社会保障制度の問題点を克服した適切な提言として歓迎したい。

12月6日から始まった臨時国会での所信表明演説で岸田首相は、①新型コロナウイルスへの対応、②経済回復に向けた支援、③新しい資本主義、④外交・安全保障、⑤憲法改正の5項目を重点課題として取り組むとした。演説の主眼は、「成長と分配の好循環」と「コロナ後の新しい社会の開拓」を柱とした「新しい資本主義」の実現らしい。ここでは、「成長と分配の好循環」の分配政策に焦点を当て、「新しい資本主義」とは何なのかを考えてみたい。

「新しい資本主義」の下での2つの分配政策が提起された。ひとつは、介護・保育・幼児教育などで来年2月から賃金3%、年間11万円程度の引上げ、看護ではコロナ対応を条件に、段階的に賃金3%、年間14万円程度の引上げで、ふたつは、賃上げした企業の法人税減税の優遇税制の強化である。しかし、経

済界は政府の介入を警戒している。

介護などの賃上げについては、来年2月～9月までの過去最大の総額35.9兆円は今年度補正予算からの補助金で、10月からは介護報酬、診療報酬などを見直す公定価格評価検討委員会の結論

ある勉強会で、70歳代の女性は「脳梗塞で倒れた夫のリハビリの費用負担がきつい。私も介護保険を利用する。医療と介護の負担が2倍になると、2人の負担は1ヵ月分の生活費と同じ額になる。11ヵ月の収入で1年を暮らすことになる」と今後の不安を語った。

政府は12月9日、介護などの賃上げ財源を協議する「公定価格評価検討委員会」の初会合を開いた。「負担能力のある高齢者に支え手になってもらう。全世代型社会保障改革こそが分配戦略の柱となるべき」との意見が相次いだと報道されている。同検討委員会の「中間報告」(年末に予定)が注目される。

「新しい資本主義」の分配政策とは、爪に火をともし替す高齢者からさらに保険料や利用負担を取り立て、これを財源に劣悪な

「新しい資本主義」の分配政策 では国民は幸福になれない

くさんの人がこの業界に入りました。でも、来なくなりました。給料が上がらない、人手も足りないから肉体的、精神的にもきつい、だから辞める。この世界の事情です」と語る(朝日新聞)。コロナ禍での事情はさらに厳しく、昨年度の訪問介護職の有効求人倍率は14.92倍だ。厚労省は高齢者がピークとなる2040年に介護職員が280万人必要で、約69万人が不足すると推定している。

高齢者の負担はどうなのか。現役世代の保険料を軽減するとの口実で来年10月から年収

200万円以上の後期高齢者は医療費窓口負担が1割から2割に引き上げられる。財務省ではさらに2024年度から介護保険サービ

このように分配政策に対して、介護などの賃上げが、利用者の負担増にならないような工夫が必要だと提起する新聞記事を読んだ。介護報酬など社会保障制度とは別建てで継続的に公費を投入する新たな処遇改善のシステムが必要だと。給付を増やせば必ず負担も増える社会保障制度の問題点を克服した適切な提言として歓迎したい。

しかし、公費負担は「税と社会保障の一体改革」により国税収入のトップとなった消費税の引上げにつながる危険性が高い。コロナ対策の補正予算などで積み上げた1千兆円を超える国債残高を前に、自民党内で財政再建派と財政積極派が対立している。前年度国税収入は、消費税21兆円、所得税19.2兆円、法人税11.2兆円である。

労働運動の強化や政権交代による税制改革によって大企業や富裕層に偏在した内部留保や所得を賃金や税金として取り戻すことが本来の分配政策ではないのか。

菊地憲之(安心と笑顔の社会保障ネットワーク代表)

これを財源に劣悪な

改憲の動きをウォッチング

衆院憲法審 国民民主、地攻撃能力保有の検討は与野幹事懇に参加 与す

これを受けて、自民党では新たな戦略などの策定に向けて議論を始めており、「国家安全保障戦略」などの改定を来年末をめどとしている。

また、防衛省は開発中の巡航ミサイルの射程を千キロメートル超まで伸ばし、地上配備だけでなく、艦艇や戦闘機へも搭載。20年代後半までの配備を目指している。

「戦争する国」づくりへの暴走は許されたい。

◇ 2021年—主な改憲の動き(上)

【1月】

- 1日 菅首相、年頭所感(改憲に触れず)
- 4日 菅首相、年頭記者会見(改憲に触れず)
- 18日 通常国会開会
- 菅首相、施政方針演説で「憲法審査会の中で議論を深め、国民的な議論につなげていくことを期待する」と決意表明

【2月】

- 3日 衆参合わせてたった4日間の審議で、新型コロナ関連法改定案成立。改定案には法律や医療など多くの団体が反対し、罰則の撤回を求めた
- 10日 法学者ら1060人が選別別姓「早期実現」を求め共同声明
- 21日 自衛隊と米軍が19年度に実施した共同訓練、演習が少なくとも76回、延べ1245日に達したことがわかった

【3月】

- 15日 菅首相の長男が勤める「東北新社」とNTTによる総務省の接待問題で、参院予算委員会が集中審議
- 21日 自民党大会、「憲法改正原案の国会発議を目標す」方針採択
- 29日 戦争法施行5年
- 6日 デジタル関連法案衆院通過
- 12日 普天間基地全面返還の日本合意から25年
- 15日 沖縄県議選、沖縄戦戦没者の遺骨混入した土砂を辺野古埋め立てに使用しないことを求める意見書を全会一致で可決
- 12日 デジタル関連法案成立
- 22日 毎日新聞の世論調査で菅内閣の不支持率は59%で、支持率は31%に下落した
- 6月
- 11日 国民投票法改定案参院で可決・成立。CMなどの規制について必要な法制上の措置を講ずる」と明記
- 15日 野党4党、菅内閣不信任決議案提出
- 16日 未明の参院本会議で土地規制法が成立
- 24日 財務省、「赤木フアイル」の開示に応じる

私の主張

介護などの賃上げについては、来年2月～9月までの過去最大の総額35.9兆円は今年度補正予算からの補助金で、10月からは介護報酬、診療報酬などを見直す公定価格評価検討委員会の結論

このように分配政策に対して、介護などの賃上げが、利用者の負担増にならないような工夫が必要だと提起する新聞記事を読んだ。介護報酬など社会保障制度とは別建てで継続的に公費を投入する新たな処遇改善のシステムが必要だと。給付を増やせば必ず負担も増える社会保障制度の問題点を克服した適切な提言として歓迎したい。

このように分配政策に対して、介護などの賃上げが、利用者の負担増にならないような工夫が必要だと提起する新聞記事を読んだ。介護報酬など社会保障制度とは別建てで継続的に公費を投入する新たな処遇改善のシステムが必要だと。給付を増やせば必ず負担も増える社会保障制度の問題点を克服した適切な提言として歓迎したい。

このように分配政策に対して、介護などの賃上げが、利用者の負担増にならないような工夫が必要だと提起する新聞記事を読んだ。介護報酬など社会保障制度とは別建てで継続的に公費を投入する新たな処遇改善のシステムが必要だと。給付を増やせば必ず負担も増える社会保障制度の問題点を克服した適切な提言として歓迎したい。

第18回平和と憲法を考えるつどい 白井聡さんが講演

有事法制に反対するネットワーク東播磨

加古川市職労、加印教組、県職東播支部ら労働組合と市民でつくる「有事法制に反対するネットワーク東播磨」が主催する第18回平和と憲法を考えるつどいが12月12日、加古川市内で開かれ、約60人が参加した。

今回は、「現代日本政治の構造：戦後の国体の終焉」と題して、白井聡さん（京都精華大学専任講師）が2時間近くにわたって講演を行った。

冒頭、白井さんは先の総選挙結果について触れ、われわれにとっては残念な結果だが、首相が菅から岸田に交代した時点で予想できた結果だったと述べ、自民党の権力維持にける執念と決意の強さに比して、菅政権の失政にだけ依拠してきたような立憲の選挙の迫りと準備の不足を感じたと指摘した。

そして、なぜ今日のよくな危うい政治状況が生まれてきたのかを歴史的な政治構造から説明。安倍から菅、そして岸田へとつづく長期政権から一強体制への構築を事実上の「ポスト55年体制」として「2012年体制」と定義。「戦前の国体」と同じ構造が、天皇からアメリカ力を頂点とする「戦後の国体」へと再編されて今も生き、反復されているとしたうえで、1990年前後（冷戦崩壊）から現在がその崩壊期、すなわち日本がアメリカの庇護から収奪の対象へと変化して、近現代の総決算の時期に来ているとした。そして自衛的な行動を残そうと呼びかけた。



2時間近くにわたって、現代日本政治の構造として「戦後の国体の終焉」を説き明かした白井聡さん＝12月12日、加古川市

誰もが希望を持てる社会へ

山田勝治氏(大阪府立西成高校校長)が講演

いのちとくらしの映画祭&講演会

まず、映画「ムヒカ世界でいちばん貧しい大統領から日本へ」が上映された。2010年から5年間、ウルグアイの大統領だったムヒカさんは、貧困層やマイノリティの側に立った政策を推し進め、自らは国民と同レベルの生活をするなど徹底的な清貧を貫いたことから、「世界でいちばん貧しい大統領」とも呼ばれた。映画の中では、ムヒカさんの国連での環境問題を訴えた演説やインタビュー、日本での講演など随所で人類の幸せとは何かを問いつけている。

続く講演では、大阪府立西成高校校長の山田勝治さんが「生徒をエンパワする学校」というテーマで、高校での様々な実践経験を伝えた。障がい者や日本ルーツでない生徒などが多数通う西成高校では、子どもの貧困の実態をつかむため、学校ではまず、家庭で机のない生徒や食事の取れない生徒のアンケート調査を

区役所窓口業務の 民間委託問題を考える

神戸市政を考える連続学習会

新社会党神戸市協議会は7日、4回目となる神戸市政を考える連続学習会を神戸市勤労会館で開催した(写真)。

今回のテーマは「区役所窓口業務の民間委託について」。神戸市が昨年策定した「行政改革方針2025」により、兵庫区役所と北神区役所で10750人の職員減が予定されていると指摘した。

次に神戸市職労支部役員の藤原悦代さんが問題提起。まず、今回の委託が組合に提案されたが管理運営事項ということで労使交渉の対象にならないことが問題だと指摘。その上で、神戸市が「価値のない定期的業務」と「価値のある業務」に振り分けることに怒りを感ずると述べた。さらにすでに委託が始まった区役所では、市民の待ち時



「生徒をエンパワする学校」と題して、高校での実践経験を伝える山田勝治・大阪府立西成高校校長＝12月5日、神戸市勤労会館

地域ユニオン あちこちあれこれ

多くの団体・組織がそうであるように、あかし地域ユニオンもほぼ1年間、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた活動が続いた。いろいろ工夫もし、対策も考えたが、緊急事態宣言の下での運動の損失は大きかったと思う。ただ、活動の中心である労働相談は、1年間で約45件を数え、新たに15人の組合員を組織することができた。

この1年間の活動を振り返ると、いくつか印象的な活動がある。

①毎年2月に開催するあかし地域ユニオン定期大会は、一堂に会する大会を取りやめ、書面決議による大会とした。幸い、多くの組合員から賛成を得られて方針は決定したが、ちっとも楽しくない。

②春闘期には、関係する企業に賃金引上げ、労働条件改善の要求書を提出して交渉を求めたが、コロナウイルス感染拡大を理由に、ほとんどの企

芦屋市議選に向けて

要コウタさんを囲む会

2023年の芦屋市議選をたたかう要コウタさんを囲む会が5日、芦屋

市打出集会所で開かれ、議席獲得へ支持拡大の取り組みを強めることが誓い合われた。

「要コウタとみんなの会」の主催で、会長の前田辰一さん(前芦屋市議)や大野



克美・新社会党芦屋総支部委員長は、選挙ごとに定数が削減され、28から21に減っていることや維新の台頭などにふれ、「新人には大変厳しい選挙になる」とことを強調。「選挙に知恵と力を集中して」と訴えた。

参加者からは、保育所の

の廃止問題や通学路の整備が進んでいない現状などが取りあげられ、市民の声を市政に届けて「なご、要さんへの期待の声を寄せられた。

先の総選挙をたたかった安田真理さんも駆けつけ、「総選挙では結果を出せなかったが、この選挙で培ったものを要勝利につないでいきたい」と決意を述べた。

なお、「みんなの会」では、要さんの支持拡大と

資金づくりを兼ねてパンフ『はばたけコウタ!』勝利をめざして駆け抜けよう』(A5判36頁、頒価千円)を発行、購読を呼びかけている。

【問合せ先】要コウタとみんなの会 芦屋市南宮町1-20-3003



寄せられた期待の声に応じて決意を述べる要コウタさん＝12月5日、芦屋市

750人の職員減が予定されていると指摘した。次に神戸市職労支部役員の藤原悦代さんが問題提起。まず、今回の委託が組合に提案されたが管理運営事項ということで労使交渉の対象にならないことが問題だと指摘。その上で、神戸市が「価値のない定期的業務」と「価値のある業務」に振り分けることに怒りを感ずると述べた。さらにすでに委託が始まった区役所では、市民の待ち時



「はばたけコウタ!」のポスター。勝利めざして駆け抜けようというメッセージと、要コウタさんのイラストが描かれている。

2021年の活動を振り返って

この1年間の活動を振り返ると、いくつか印象的な活動がある。

①毎年2月に開催するあかし地域ユニオン定期大会は、一堂に会する大会を取りやめ、書面決議による大会とした。幸い、多くの組合員から賛成を得られて方針は決定したが、ちっとも楽しくない。

②春闘期には、関係する企業に賃金引上げ、労働条件改善の要求書を提出して交渉を求めたが、コロナウイルス感染拡大を理由に、ほとんどの企

業に先送りを求められた。最低、文書による回答はあったが十分に活動できていない。

③ラビネット裁判の地裁判決が10月8日にあったが、最も重要な争点であった上司による捏造文書が「違法行為に当たると判断されたことは大変うれしいことである。2人の組合員の粘り強い努力に拍手である。どちらも控訴しているの

裁での闘いとなる

④加東市内の訪問看護ステーションに採用された組合員の解雇問題を労働審判で闘い、大きな成果を上げられたと思う。代理人を依頼せず、ユニオンと2人の組合員が何度も相談しながら労働審判に備えた。また、審判会場にはユニオン役員も入れず、組合員だけで裁判所・会社側弁護士に對した頑張りや要求を勝ち取った。

この1年間の活動で不足している課題も明確だ。やはり学習が必要であり、活動の内容を執行委員会が共有することはできていない。もう少し外に向かって呼びかけたいと思う。

2022年はそんなことも考えて活動を強めたいと思う。

金平博(あかし地域ユニオン委員長)

若者のひろば

11月14日に私の通っている大学で2年ぶりに学祭が開催されました。

私の所属するサークルでは、夏休みに行った輪読会やテーマ研究の報告を展示し、使用した参考文献を机に置いて自由に読めるようにしたほか、サークルメンバーがテーマを決め、書いたレポーターを冊子にまとめて展示を見に来てくださった方に配布するといったことをしていました。

今年の学祭は、このご時世なので当然ではありませんが、各部門で検温を行う、建物の入り口にアルコール消毒液を置くなどの感染症対策を行って行われました。

しかし、これだけならまだしも、違和感を覚えたのは「大学に籍を置く学生を含めて、学祭当日に大学に来る人は事前に予約をしなければならぬ」という点でした。

HPにある申請フォームで受付を行い、学祭の数日前になると申請した際に登録したメールアドレスにQRコードが送信されて、当日は入場時に検温とともに係員に提示するというのがシステムだったのですが、周囲の知人になつたというシステムになつたという人も複数あり、教えた後にじゃ

あ申請してみようかとHPに行つたところ、入場者の制限を行っていたためか、入場申請ができなくなつてしまつていた、という状況になつてしまつた。

ないかと思ひます。ですが、学祭のような外部に開かれている行事で入場制限を行うというのは初めてのことであり(去年はコロナの影響で学祭そのものが中止でした)、今年は開催しますよという告知と共に、入場が事前予約制であること、人数制限があるから早めに参加の申請をしてほしいということなどもっとしっかりと発信しなければ多くの人に伝わらなかつたのではないかと考えてしまひます。

私は現在大学2年生で、今年が大学に入学して初めての学祭だったので、以前はどのような雰囲気だったのか、どれくらい人が来ていたのかということばかりありません。しかし、今年私の大学で行つていくなかなか強い感染症対策を行い、入場者も事前予約制にして行わないといけないような状態というのは当然ながら好ましい状況ではありませぬ。なので、来年以降はコロナが一定程度収束して今年のような厳しい制限を課すことをしなくても開催ができ、誰でも自由に出入りして楽しむような学祭を行えるようになって欲しいと思います。(梅垣)

コロナ禍で不自由続く大学生活

から多く集まる場所です。かなりと感染症対策を行うというところは大切ですが、学祭となると学生や教職員だけでなく、学外から参加する一般人の方たちも多くいるので、人数制限を行うというのもある程度は仕方ないのでは



『虫がいない 鳥がいない』

久志富士男、水野玲子著／高文研／1500円＋税

BSテレビの特集「農業ネオニコチノイド(以下ネオニコ)」に驚愕し、事実を学ぼうと、『虫がいない 鳥がいない』を読んだ。

自然を守ってきた二ホンミツバチが全滅。著者の久志富士男氏は、長崎県で20年以上養蜂を営んできたが、2008年、ミツバチが少しずつ死滅しはじめた。さらに7月、養蜂仲間のミツバチが、死んだ幼虫を巣箱の外に捨て始めた。久志氏の調査が始まる。松くい虫駆除剤の空中散布で800m離れた巣箱のミツバチの全滅やツバメの減少の関係も調べた。長崎県が稲のカメムシ駆除にネオニコ系の農薬「ダントツ」を推奨していた。

2009年秋、ミツバチがいなくなり、イチゴの花粉媒介がされなくなったイチゴ農家は現在大学2年生で、今年が大学に入学して初めての学祭だったので、以前はどのような雰囲気だったのか、どれくらい人が来ていたのかということばかりありません。しかし、今年私の大学で行つていくなかなか強い感染症対策を行い、入場者も事前予約制にして行わないといけないような状態というのは当然ながら好ましい状況ではありませぬ。なので、来年以降はコロナが一定程度収束して今年のような厳しい制限を課すことをしなくても開催ができ、誰でも自由に出入りして楽しむような学祭を行えるようになって欲しいと思います。(梅垣)

本棚

マトリックス レザレクシヨonz

「マトリックス」とは、ここでは仮想世界のこと。その第4作目。1999年の第1作は衝撃的だった。

近未来、コンピュータが発達し、人類に対して反乱を起こす。人類は、コンピュータのエネルギー源になつている太陽光を遮断すべく、地球をガスで覆う。しかし、コ

たちと「みつばち連絡会」を発足させ、長崎県畜産課と交渉。ダントツの「大規模散布」は自主規制すると約束させた。しかし、行政は個人の散布まで規制しなかつた。農薬もダントツからスタークルに切りかえていた。化学兵器から開発された農薬

ミツバチの目で見た農薬問題 (副題)

水野玲子氏の「農薬の歴史」では、1960年代に使用されたDDT等の有機塩素系農薬は、塩素ガス化学兵器から開発された。残留性等が明らかになり、70年代に禁止され、有機リン系農薬など3種類の農薬に代わつた。ところが有機リン系農薬も、毒性と残留性が強く、2007年にEU諸国が禁止。しかし、日本やアメリカはいまだに使っている。

書虫が有機リン系農薬に耐性を持つようになり、90年代にネオニコ系農薬が世界を席巻。

76か国で使用され、日本では7種類の成分が登録され、数十種類の商品が販売され、農業や松枯れ防除、シロアリ駆除などに使用されている。

ホームセンターでは、ネオニコでなく、7つの成分名が書かれた農薬や殺虫剤が売られている。ネオニコをチェックしていた自分の不勉強を恥じている。

水野氏は言う。ネオニコの特性は、神経毒性、浸透移行性、複合毒性、残効性である。ネオニコは、昆虫の神経細胞に興奮を引き起こし、神経伝達をかく乱させる「神経毒」である。ところが、人も昆虫も神経系の基本は類似しており、神経系と神経伝達物質の働きが生命維持に関わる。農薬で昆虫が死ぬということは、人間も危ないということではないのか。

強い「浸透性」のため、ネオニコが根から吸収されると茎や葉、花などに毒が染み渡り、そのイチゴを洗っても、農薬は1・7%しかとれない。私たちは、ネオニコまみれのイチゴを食べているのだ。

2012年、英仏チームは、ネオニコによるミツバチの死亡率が数倍高いこと、また、ハーバード大学で注意欠陥多動障がい児のリスクが約2倍と発表。そのため、EU諸国でネオニコの禁止が広がった。

ところが、わが国では、ミツバチの減少はウィルスやストレス、地球温暖化、農薬の複合的原因だと主張し、ネオニコを規制せず、松枯れ剤の空中散布を続けている。米国のバイエル社のネオニコに浸したイネによる土壌残留と水系汚染のザリガニ大量死裁判や、ネオニコと殺菌剤の同時使用で毒性が千倍以上になる「複合汚染」の話は報道されない。官僚や学者、行政、マスメディアが企業の利潤追求や経済成長を推進するため、虫や鳥の死滅、農薬の「人体実験」を許している日本社会の恐ろしい実態を知る一冊である。(永井俊作)



久志富士男氏

から30年が経ち、さらに身近なものになつてきた。しかし、仮想現実の世界に入つていった場合、マトリックスでは、デジヤブが現実との区別のヒントになつていくようだが、実際に仮想現実と現実との区別はできるのだろうか。

また、これも考える。われわれは現在、資本主義の世の中に生きている。労働者は資本家に搾取されているが、お金さえあれば幸せになれると思ひ込まれている。そして反抗するものは資本家からの徹底した攻撃を受ける。まさしく「マトリックス」の世界ではないか。

「トータル・リコール」(1990年)などにも仮想現実の世界が登場する。全くSF物語と思つていた仮想現実が、あれ

シネマランド

仮想世界から覚醒し新たな戦いへ

監督ヒラナ・ウオシャ ウスキー/2021年 /米/148分